

基礎医療薬学 3

1 単位 (必修) 2 年 (後期)

Basic Clinical Pharmacy 3

福井 裕行・教授 / 創製薬科学科 標的探索学講座 分子情報薬理学, 小坂 博昭・教授 / 香川大学, 前山 一隆・教授 / 愛媛大学

【授業目的】循環器系, アレルギー, 中枢神経系の生理学とそれらに作用する薬の構造と機能についての基本的知識を習得する。

【授業概要】循環器系, アレルギー, 中枢神経系に作用する薬の薬理作用, 作用機序, 副作用を理解するために, それぞれの臓器の生理機能について学び, 次いで, 薬が生理機能にどのように関わって行くかを学ぶ。

【授業形式】講義

【履修上の注意】基礎医療薬学 2 に引き続いて, 「薬はなぜ効くか」という問いに対して, 効く側である生体の生理機構に異なる機能系について, 知識と理解を身につける。また, 多くは有機化合物である薬物が標的分子 (ほとんどが蛋白) に結合して薬理作用を示すことを深く理解できることが大切である。しかしながら, 薬には標的蛋白に対する分子薬理機構まで明らかにされているものから生体機能に対する作用しか明らかにされていないものがあることを理解すべきである。

【到達目標】

1. 以下の機能系の生理学, および, それらの機能系に対する代表的な薬物について, 薬理作用, 作用機構, 主な副作用について説明できる。

1) 1. 循環系に作用する薬
強心薬, 不整脈治療薬, 狭心症治療薬, 高血圧症治療薬

2. 2. アレルギーに作用する薬

3. 3. 中枢神経系に作用する薬

抗神経病薬, 抗うつ薬, 抗不安薬, パーキンソン病治療薬, 麻薬性鎮痛薬, 解熱鎮痛薬, 中枢興奮薬, 全身麻酔薬, 抗けいれん薬, 催眠薬

【授業計画】

1. 基礎医療薬学 3 入門
2. 循環器作用薬総論
3. 循環器作用薬 1, 心不全治療薬
4. 循環器作用薬 2, 不整脈作用薬
5. 循環器作用薬 3, 虚血性心疾患治療薬
6. 循環器作用薬 4, 高血圧症治療薬
7. 中枢神経機構総論
8. 中枢神経作用薬 1, 麻酔薬, 催眠薬
9. 中枢神経作用薬 2, 向神経薬
10. 中枢神経作用薬 3, 抗不安薬, 抗うつ薬, 抗てんかん薬

11. 中枢神経作用薬 4, パーキンソン病治療薬

12. 中枢神経作用薬 5, 鎮痛薬, 中枢興奮薬

13. 特別講義 (前山一隆)

14. 特別講義 (小坂博昭)

15. 講義総復習小テスト

【成績評価】試験, レポートで評価する。

【再試験】実施する。

【教科書】「薬理学 一医薬品の作用一 (竹内幸一, 福井裕行, 栗原順一 編) 廣川書店」(7,600 円+税) を用いる。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217152>

【連絡先】

⇒ (研究室) 分子薬物学教室 (薬学部本館 3 階東)

(Eメールアドレス) hfukui@ph.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー: 随時)